

資料 4

特別支援学校における現状と主な取組（特別支援教育課）

1 現状

(1) 年度別いじめの状況（公立特別支援学校39校4,949人）

年 度	28年度	29年度	30年度	R1年度	R2年度	R3年度
認知件数	25	38	20	12	10	11
年度中解消	24	26	6	7	5	11
継続指導中・転学、退学等	1	12	14	5	5	0
解消率（％）	96.0	68.4	30.0	58.3	50.0	100

(2) いじめの態様（複数回答可）

区 分	R2年度	R3年度
冷やかし、からかい、悪口や脅し文句等と言われる	7	4
仲間はずれ、集団による無視をされる	0	1
軽くぶつかられる、遊ぶふりをしてたたかれる 等	5	1
ひどくぶつかられる、たたかれる、蹴られる 等	0	1
金品をたかられる	0	2
持ち物を隠される、盗まれる、壊される 等	0	0
嫌なこと、恥ずかしいこと等をされる、させられる	0	2
パソコンや携帯電話等でひぼう・中傷される 等	0	1
その他	3	0

(3) いじめ発見のきっかけ

区 分	R2年度	R3年度
学級担任が発見	1	0
学級担任以外の教職員が発見	1	3
養護教諭が発見	0	0
スクールカウンセラー等の相談員が発見	0	0
アンケート調査など学校の取組により発見	6	6
本人からの訴え	1	0
本人の保護者からの訴え	1	2
他の児童生徒からの情報	0	0
保護者（本人の保護者を除く）からの情報	0	0
地域の住民からの情報	0	0
学校以外の関係機関からの情報	0	0
その他	0	0

2 いじめ防止への取組

(1) 県の主な取組

名 称	対 象	内 容
生徒指導連絡協議会	生徒指導主事	<p><事業内容及び目的></p> <p>各県立特別支援学校（本校、分校、分教室の各教場）の生徒指導主事又は生徒指導担当教諭を対象とし、各学校における生徒指導の取組等に関する情報交換をとおして、各校の生徒指導体制の向上に資するとともに、生徒指導担当者としての資質を高めることを目的とする。</p> <p>7月7日に第1回を開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・性犯罪防止に向けての講演 ・「令和3年度生徒指導状況報告」の調査結果について ・各種通知等の周知・確認 ・各校担当者からの事後報告書の提出 <p>11月29日に開催予定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導状況調査、問題行動等調査の結果 ・学校の安全管理について ・グループ研修「各校の生徒指導上の取組と課題について」
心理専門員（スクールカウンセラー）活用事業	各特別支援学校	<p><事業内容及び目的></p> <p>重篤な問題行動や不登校等による、個別カウンセリングが有効な児童生徒や保護者の相談等に適切に対応するため、児童生徒の心理に関して専門的な知識・経験を有する心理専門員（スクールカウンセラー）を各特別支援学校に配置する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・12人を拠点校に配置し、39教場、全てに派遣。悩みや不安を抱える児童生徒や保護者の相談等に応じ、相談体制を充実させる。 ・スクールカウンセラーが行う校内研修の実施 「事例検討」「情動調整」「アセスメント」等 ・教育相談機能向上のためスクールカウンセラー連絡協議会を開催（令和4年8月1日実施） 「校内研修」「校内連携」「相談事例」に関する協議等
スクールロイヤー活用事業	各特別支援学校	<p><事業内容及び目的></p> <p>法律の専門家（スクールロイヤー）の活用を図り、各学校におけるいじめの予防教育の推進や生徒指導上の諸課題の解決支援を行う。</p>

(2) 各学校の主な取組（公立特別支援学校37校）

ア いじめの日常的な実態把握のための取組（複数回答可）

区 分	R2年度	R3年度
アンケート調査の実施	33	36
個別面談の実施	28	25
教職員と児童生徒との間で日常的に行われている日記等	19	18
家庭訪問	6	4
その他	0	1

イ 学校におけるいじめの問題に対する日常的な取組（複数回答可）

区 分	R2年度	R3年度
職員会議等を通じて、いじめ問題について教職員間で共通理解を図った。	29	27
いじめの問題に関する校内研修を実施した。	15	11
道徳や学級活動の時間にいじめにかかわる問題を取り上げ、指導を行った。	34	32
児童・生徒会活動を通じて、いじめの問題を考えさせたり、児童・生徒同士の人間関係や仲間作りを促進したりした。	27	25
スクールカウンセラー、相談員、養護教諭を積極的に活用して教育相談体制の充実を図った。	27	31
教育相談の実施について、学校以外の相談窓口の周知や広報の徹底を図った。	19	17
学校いじめ防止基本方針をホームページに公表するなど、保護者や地域住民に周知し、理解を得るように努めた。	36	35
PTAなど地域の関係団体等とともに、いじめ問題について協議する機会を設けた。	4	3
いじめ問題に対し、警察署や児童相談所など地域の関係機関と連携協力した対応を図った。	4	9
インターネットを通じて行われるいじめの防止及び効果的な対処のための啓発活動を実施した。	19	24
学校いじめ防止基本方針が学校の実情に即して機能しているか点検し、必要に応じて見直しを行った。	32	32
学校いじめ防止基本方針に定めているとおり、いじめ防止等の対策のための組織を招集した。	37	38

3 分析・課題等

- いじめに関する国・県の基本方針の周知や生徒指導主事の協議会実施、各校のいじめ防止基本方針の見直し等を行い、いじめ認知や予防への理解を深めてきた。各校において人権教育の実施や児童生徒の関係性の把握など、事案発生を未然に防ぐよう丁寧に取り組んだ結果、件数が前年度同程度に抑えられたと考える。
- 担任だけでなく、学年内の教員や学習グループの教員など、多くの目で児童生徒の様子を見ることで、児童生徒の発信や異変に気づき、早期の対応につなげていると考える。
- 年度内に全ての案件が解消した。被害・加害両方の児童生徒に寄り添い、教職員が共に解決策を考えるよう努めている。学年・学部の教職員が役割分担をして対応したり、外部の関係機関に相談したり、学校内外で連携して解決に向かう意識が高まっていると考える。

資料5

私立学校における現状と主な取組（私学振興課）

1 現状

(1) 年度別いじめの状況（小5校、中27校、高44校、児童1,739人、生徒37,731人）

年 度	R2年度			R3年度		
	小学校	中学校	高校	小学校	中学校	高校
学校種 【全学校数】						
認知件数	19	25	37	36	41	42
年度中解消	14	19	31	33	33	34
継続指導中等	5	6	6	3	8	8
解消率（%）	73.7%	76.0%	83.8%	91.7%	80.5%	81.0%

(2) いじめの態様（複数回答可）

区 分	R2年度			R3年度		
	小学校	中学校	高校	小学校	中学校	高校
冷やかし、からかい、悪口や脅し文句等と言われる	10	19	29	32	30	22
仲間はずれ、集団による無視をされる	10	9	3	3	6	9
軽くぶつかられる、遊ぶふりをしてたたかれる 等	5	5	3	3	4	4
ひどくぶつかられる、たたかれる、蹴られる 等	0	4	0	0	4	3
金品をたかれる	0	1	0	0	2	1
持ち物を隠される、盗まれる、壊される 等	0	1	3	0	1	3
嫌なこと、恥ずかしいこと等をされる、させらる	0	1	3	0	5	2
パソコンや携帯電話等でひぼう・中傷される 等	0	2	5	3	6	10
その他	0	0	0	0	1	0

(3) いじめ発見のきっかけ

区 分	R2年度			R3年度		
	小学校	中学校	高校	小学校	中学校	高校
学級担任が発見	4	1	7	8	5	6
学級担任以外の教職員が発見	0	0	0	0	2	1
養護教諭が発見	0	0	0	0	1	0
スクールカウンセラー等の相談員が発見	0	0	0	0	1	0
アンケート調査など学校の取組により発見	0	12	13	2	13	17
本人からの訴え	9	7	10	16	8	9
本人の保護者からの訴え	6	2	2	8	6	5
他の児童生徒からの情報	0	2	3	0	3	4
保護者（本人の保護者を除く）からの情報	0	1	0	2	2	0
地域の住民からの情報	0	0	0	0	0	0

2 いじめ防止への取組

(1) 県の主な取組

- ア スクールネットパトロール事業を県内私立小・中・高等学校（76校）で実施
- イ 静岡県子どもいじめ防止条例啓発リーフレットを県内私立学校に配付
- ウ いじめの情報提供に対し、学校に事実の確認と適正な対応を要請

(2) (公社) 県私学協会の主な取組

- ア 外部講師を招いた人権教育研修会の開催
- イ 生徒指導研修会において各校の取組を情報交換
- ウ いじめ等の問題に対して、各学校の相談体制を整備するため、顧問弁護士と委託契約を締結

(3) 各私立学校の主な取組

- ア いじめの日常的な実態把握のための取組（複数回答可）

区 分	R2年度			R3年度		
	小学校	中学校	高校	小学校	中学校	高校
アンケート調査の実施	1	20	35	2	21	30
個別面談の実施	4	16	22	4	18	25
教職員と生徒との間で日常的に行われている日記 等	3	16	12	3	16	8
家庭訪問	0	5	6	0	2	6
その他	1	3	1	0	1	2

イ 学校におけるいじめの問題に対する日常的な取組（複数回答可）

区 分	R2年度			R3年度		
	小学校	中学校	高校	小学校	中学校	高校
職員会議等を通じて、いじめ問題について教職員間で共通理解を図った。	4	21	35	4	17	24
いじめの問題に関する校内研修会を実施した。	1	9	7	2	6	11
道徳や学級活動の時間にいじめにかかわる問題を取り上げ指導を行った。	5	21	19	4	16	18
児童・生徒会活動を通じて、いじめの問題を考えさせたり、児童・生徒同士の人間関係や仲間作りを促進したりした。	2	16	11	0	13	13
スクールカウンセラー、相談員、養護教諭を積極的に活用して教育相談体制の充実を図った。	5	24	38	4	18	32
教育相談の実施について、学校以外の相談窓口の周知や広報の徹底を図った。	2	11	18	2	13	19
学校いじめ防止基本方針をホームページに公表するなど、保護者や地域住民に周知し、理解を得るように努めた。	3	14	24	4	13	23
PTAなど地域の関係団体等とともに、いじめ問題について協議する機会を設けた。	0	1	1	0	1	0
いじめ問題に対し、警察署や児童相談所など地域の関係機関と連携協力した対応を図った。	0	1	3	0	2	4
インターネットを通じて行われるいじめの防止及び効果的な対処のための啓発活動を実施した。	1	19	30	2	12	25
学校いじめ防止基本方針が学校の実情に即して機能しているか点検し、必要に応じて見直しを行った。	2	9	25	1	10	19
いじめ防止対策推進法第22条に基づく、いじめ防止等の対策のための組織を召集した。	1	6	15	1	7	11

ウ その他

私立全日制高校43校中40校（93.0%：令和3年度）がスクールカウンセラー等を配置。

3 分析・課題等

いじめの認知件数は、全校種で増加しており、全国的な傾向と同様である。

令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響が続き、感染を予防しながらの生活となったが、部活動や学校行事などの様々な活動が徐々に再開されたことにより接触機会が増加するとともに、いじめ防止対策推進法におけるいじめの定義やいじめの積極的な認知に対する理解が広がったことなどで、いじめの認知件数が増えたものと考えられる。

資料 6

いじめの未然防止等のための教員研修（教育政策課・総合教育センター）

1 教育政策課関係（令和4年度）

(1) 新任校長研修、新任教頭研修等

人権教育に係る講義の実施及び「令和4年度静岡県人権教育の手引き」の紹介

- 「令和4年度静岡県人権教育の手引き」（目次から抜粋）
- ・学習例 特集①「子どもの人権を守ろう（自分自身や友達の大切さについて考えよう）」
特集②「インターネットによる人権侵害をなくそう（情報との上手な付き合い方について考えよう）」
 - ・教員向けチェックシート「振り返りましょう、あなたの人権感覚」

(2) 人権教育担当者研修会（悉皆）

人権教育推進の役割を担う者としての自覚を高め、指導者としての資質向上と指導力の強化を図ることを目的に実施

- 令和4年度の内容
- ・静岡県教育委員会における人権教育について
 - ・自己有用感を高めよう（子どもの自己有用感を高める教育活動といじめの未然防止について）
 - ・「静岡県人権教育の手引き」の活用について

2 総合教育センター関係（令和4年度）

研修名	概要
初任者研修（小・中）（悉皆）	講義「生徒指導」、講義「教育相談」、講義「人権教育」
中堅教諭等資質向上研修（小・中）（悉皆）	講義・演習「教育相談」
高等学校初任者研修（悉皆）	講義・演習「生徒指導」、講義・演習「教育相談」、講義・演習「人権教育」
高等学校中堅教諭等資質向上研修（Ⅰ期）（悉皆）	講義・演習「教育相談」
特別支援学校初任者研修（悉皆）	講義・演習「教育相談」、講義・演習「人権教育」
特別支援学校6年次研修（悉皆）	講義「人権教育」、講義「生徒指導」
特別支援学校中堅教諭等資質向上研修（Ⅰ期）（悉皆）	講義・演習「人権教育」、講義・演習「教育相談」
静岡県の生徒指導研究協議会（悉皆）	講演「機能するいじめ防止対策組織の構築に向けてー『生徒指導提要』改訂に向けた方向性をふまえてー」
生徒指導総合研修（推薦）	講演「いじめ解決への予防的・開発的な指導」
教育相談の基本姿勢ー聴くということー（希望）	講義「教育相談の基本姿勢ー聴くということー」、演習「面接相談の実際」
明日から使える学校カウンセリングスキル（希望）	講演「学校カウンセリングについて」、演習「問題解決的カウンセリングスキルの実際」
不登校の未然防止ー子どもたちのレジリエンスに着目してー（希望）	講演「不登校の未然防止ー回復力を高めるためにはー」、演習「研修ワークシートを活用したグループワーク」

